



TITLE:

海外日誌

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 海外日誌. 天界 1923, 3(26): 55-59

ISSUE DATE:

1923-01-25

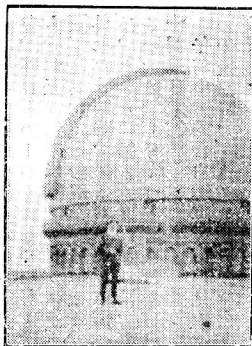
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159829>

RIGHT:

海外日誌

在米山本一清



大正十一年六月、宇宙物理學研究のため、自分は文部省から米英獨三國へ派遣せられる辭令を受けた。それから京都に於ける仕事は六月中に大部分を片付けた。七月には信州淺間山の重力偏差觀測をやつたが、之れも、其の月末には終る。八月一ばいは輕井澤の吉田氏

方で、いろいろ準備をした。

九月六日(水)

一旦、京都へ歸り、次いで七八兩日は滋賀縣へ歸省、近親に暇乞。

九月九日、また京都へ。

九月十一日(月)

午後八時五十分、英子と共に京都出發。翌十二日朝横濱着。

九月十四日(木)

午後二時、多くの友人に見送られて、横濱を出帆した。船は日本郵船七千噸の富山丸。主として貨物船なので、吾々兩人の外に、船客は唯一人。船全體を我がものやうにして、自由に勝手に、船員たちと親しみながら、東へへ航海をつづけた。………こゝには、吾々兩人の在外の生活を、報告的に、記して行くことにする。海外所々の特別な記事は、別に文を更めて、かく。

九月二十九日(金)

横濱出帆後、今日で十五ヶ日。二回シケに會ひ、多くは船室に蜃居して、讀書にふけつたが、長く、陸地を見ないので、淋しい。い

よ／＼今日あたりカナダの岸に近づいたらしいが、霧が深いので船は始終、笛を吹いて進む。午後五時頃、右舷に星條旗を掲げた燈臺船を近く見、始めて陸の近いのを知つた。午後六時には船首の船員により始めて燈臺の火を發見したとて、船長も大喜び、船中、一同何さなく活氣づく。夜、うれしくて眠られない。夜半、船室の窓から外ながるゝと、右岸に米國の小さな町の電燈を見た。

九月三十日(土)

朝六時、船は昨夜から泊つてゐて、檢疫醫來る。檢疫後、直ちに出帆、美しい景色を左右にして、船は北へ東へ。午後三時、バンクバー着。吾々は直ちに上陸して、こゝに始めて外國の地をふむ。先づ郵便局で始めて外國郵便を出し、それから市街の見物、次でレストーランで晩食。八時歸船。船は夜十時、出帆、シアトルへ向ふ。

十月一日(日)

朝七時、いよ／＼米國の入口のタウンズエンド港沖で檢疫。八時出帆、ピウセツト・サウンドの靜かな波の上を、船は走る。此の朝、船の機關長に頼んで、機關室の中を見せて貰つた。

十一時、シアトルの日本郵船棧橋に着、税關吏と移民官の一通りの問答があつて後、上陸。H氏と三人、自動車を雇ふて、メイン街のホテルに入る。

午後、市街を散歩。タ五時、N.P.の向ひ側の組合教會で安部牧師に會ふ。今日は聖日なので、五時から此所で開かれる英語禮拜にビーシー氏の説教をきく。それから一寸、時間があるからと、安部氏に案内されて下町を見物。四つ辻のあたりから盛んに路傍説教が行はれてゐるのを見、それから「世界第二」といはれる四十三階のスマイスの高塔に登つて、大シアトルの夜景を眺めた。………八時には、又、教會でトロノフ親子の音楽をきく。

十月二日(月)

ホテルはアメリカ式で、食事をしてくれない。それで朝起き早々附近のレストランへ走る。歸つて見れば、安部氏と雀部氏と來訪。晝餐は美味はしい日本料理をいたゞく。午後は安部氏の案内で、市内見物。ついでに日本領

事館を訪ひ、明日ヴィクトリア行の證明をして貰ふ。夕方、東スプ
ルース街の婦人ホームにミス・ラムシーを訪ふ。

十月三日(火)

朝九時、シアトル發、カナダ・パシフィック會社のプリンセス・ヴィ
クトリア號でヴィクトリアに向ふ。天氣は好く、景色は頗る上等で
あつたが、風は寒かつた。正午、船の食堂で、一寸、まごつく。午
後一時半、ヴィクトリア着。税關よろしく。直ちに自働車を雇つて
ドミニオン・天文臺に行く。天文臺は既に海上からも見えてゐたけれ
ど、走つて見ると、港からは七哩もあつて、可なり遠い。小山の上
まで車は登る。ドームの入口で車を停て、入つて案内を乞へば膳ら
顔の大男が出て來た。之れが有名なハーバー氏。その側にクリステ
イ氏。此の二人に案内されて階上の七十二吋反射望遠鏡を見る。
今日は臺長プラスチック氏不在なので、また明日来ると言ひ殘して
一旦、市街に引き上げ、ドミニオン・ホテルにこまる。夕方、街路を
散歩。

十月四日(水)

今日は午後一時から、教へられた市外鐵道で天文臺に行く。一
みち、景色を眺めながら、行き着いて、臺長プラスチック氏に面
會、昨日のハーバー氏も亦一しよて、觀測のことやら、日本の話や
ら、お互ひ交互に話す。プラスチック氏に大質量星の發見について、
「おめでたう」とお祝ひを述べる。先生大喜び、早速パンフレットを
呉れた。四時、ハーバー氏が市街へ歸るので其の自働車にのせて貰
ひ、ホテルに歸る。別れぎほに、臺長は「今夜暗れたら是非又來な
さい」と、くりかへし言はれたけれど、生憎曇り。

十月五日(木)

午前中、乗合自働車で市内見物。
午後四時、ヴィクトリア發、夜九時シアトル着。又、NPホテル
に宿る。

十月六日(金)

午後、ミス・ラムシーの紹介によるミス・マカロイ來訪。次で、又
お隣りの村上氏を訪ふ。英子の着物の相談が主な用事である。四時
から、雀部氏の自働車にのせて貰つて、ワシントン湖の岸を見物。

食事はミス・ラムシー方で饗せられ、それから、皆打揃つて、雀部氏
宅を訪問。十時頃まで歓談。楽しい、いそがしい日であつた。

十月七日(土)

午前中、村上氏夫妻と自働車で市内見物。ワシントン州立大學を
見る。

正午、雀部氏の饗應を受け、それから、又自働車で市街の北部を
見物。動物園で少しひまなこつた。

十月八日(日)

朝、組合教會で禮拜。

正午には教會の有志會食。それから暫く市街見物。大學天文臺
を見た。こゝは七時ごろの小さい望遠鏡一つだけの設備らしかつ
たが、休日で、中は見られない。

夜は教會堂内で、天文講演をした。上陸後之れが始めて。

十月九日(月)

朝九時十五分、ユニオン停車場にて、シカゴ・ミルチキー・セン
トポール鐵道のオリンピック號に搭乗、多くの人々に見送られて、
始めての大陸旅行に出發した。發して暫くの間はカスケイド山の秋
色頗る美しかつたが、午後からは廣々とした平野を走るので退屈で
あつた。食事は、あらかじめ持ち込んだ辨當ですます。夕方、スポ
ーケンに一時間停車。夜は九時、寢臺車に入る。

十月十日(火)

終日、汽車は走る。ロツキー山から大砂漠へ。無趣味なも甚だし。

十月十一日(水)

南北ゴタの境界を東へ。砂漠はぬけたが、やはり人家は極
めて少ない。夜半、ミネアポリスセントホルの双子市に停車し
て、俄かに文明の空氣に觸れたやうな氣がする。明日はいよいよシ
カゴ着。

十月十二日(木)

朝九時、ミルチキー市を通過。十一時半、シカゴのユニオン停
車場着。車から出て見れば、日本人青年會の島津氏が出迎えて下さ
つた。大喜び。それから、早速、タキシに乗つて、青年會館に入る。
自働車の窓から見たシカゴの街々の恐ろしい光景。しかし着いた

此の青年會館は全く日本の青年たちばかりで占領してゐるので、大へんに嬉しい。

午後、A氏の案内で、早速、市街の見物に出かけ、フィールド博物館や、ミシガン通りの美術館などを見、夕方歸る。しかし市見物よりも、先づヤークスの方の都合が如何であるか。之れが氣になる。それで島津氏の助言で、今夜、天文臺長フロスト氏へ左の電報を打つた。

「妻同道にて只今シカゴ着。御指定により何時にても參上す。御都合如何。シカゴ青年會にてヤマト。」

十月十三日(金)

朝九時、突然、フロスト氏から電話がかゝつた。直ぐ今日午後來いとのこと。オーライ。早速その準備——といつても、今日は兎にかく初見參の御挨拶が目的なので、主な荷物は運ばない。午後三時四十五分、シカゴ北西停車場から汽車にのり、同五時五十五分、ウイリアムスパー着。その場でフロスト氏と同夫人とに迎えられ、直ちに自働車で天文臺に運ばれる。美しく燈のついてゐる天文臺の外側をいまはり廻つた後、今夜御厄介のヴン・ビースブルク教授の宅に案内され、同家の家族の人々に迎へられ、直ちに晚餐。それから取敢へず「天文臺へ」と、同教授の案内をして貰つた。こゝでは有名な大四十時、それから各員の室などを案内され、圖書室へ來た時、フロスト臺長を始め、バーナード教授、リー氏、ストルーフェ氏等も來られ、暫く雑談、九時半、元のヴアン・ビースブルク教授の宅に歸り、二階の一室に眠る。

十月十四日(土)

天文臺の人々に一通りの挨拶は終り、宿としてはヴン・ビースブルク教授の宅に下宿することまで豫定されてゐるので、今日は朝早くシカゴの青年會に歸り、改めて、二三日の中に荷物など纏めてやつて來るとする。

今朝の汽車には、天文臺のバレット教授と同車したため、萬事好都合であつた。シカゴ着は午前九時四十分、それから、バスでマアシヤルフィールドへ行き、二三買物なし、午後三時頃、青年會に歸着した。

午後五時、招かれて、マデソンパークの塚本幸吉氏を訪ひ、晚餐を饗せられ、十時頃まで雑談した。

十月十五日(日)

朝十一時、青年會の次田氏の御案内で、第四長老教會へ禮拜に行き、着来して始めての外人教會の、殊にシカゴ有数の立派な儀式を見た。英子は宿にゐる。夕、島津主事宅に招かれて晚餐。八時からは青年會内の説教會に列し、柏木氏の講話をきいた。

十月十六日(月)

午前中、島津夫人の御案内で、三人づつで下町へ買物に行つた。ウイリアムスパーで差當り必要なものを買ふ。

午後、自分だけ、約束により、塚本氏に案内されて、シカゴ大學に行き、ライアソン物理學館の中を見、マクミラン、マイケルソン兩教授に會ひ、又、神學館でマシウス教授に會つた。

十月十七日(火)

夜、英子と共に散歩に出かけ、デデリ館で活動寫眞を見る。

朝、荷作り、トランク一つと、皮カバン四個をウイリアムスパーへ發送す。午前十一時、約束により、單獨でシカゴ大學へ行き、塚本氏に、昨日の續きの案内をして貰つた。午後三時から、下町に行き、ミシガン通りに、日本領事館を訪ひ、來着届を出し、桑島領事に面會した。

十月十八日(水)

歸途、シカゴ劇場で、下町の代表的オーケストラを聞く。

いよいよシカゴ引き上げ。朝早く、島津氏に送られて、北西停車場から、八時十五分の列車で出發した。此の列車は直行でなく、途中、クリスタル・レーキ驛で乗換へたのだが、ウイリアムスパーには十一時十五分に着いて、ヴン・ビースブルク氏とパークハースト教授とに迎えられ、直ちに自働車で、天文臺構内のヴン・ビースブルク氏宅へ運ばれた。

午後は荷物を解き、室内の整理——これで横濱出帆以來(或るものは輕井澤以來)の荷を解き、始めて、ホット、落付いた心地になつた。

夜は晴れてゐたので、天文臺へ出かけ、ストルフェ氏に十二時望遠鏡室や屋根上の諸設備を見せて貰つた後、四十時望遠鏡室に入つて、ヴン・ビースブルク氏が視差の寫眞觀測をしてゐられるのを暫く見た。

十月十九日(木)

今日から、毎日毎夜、都合さへ好ければ天文臺へ行く。自分の室は圖書室の向ひ側で、ストルフェ氏の室と、寫眞室との間の室と與へられ、フロスト臺長は「ミセス・ヤマモトも此所へ来て研究なささい」と言つて、席を一つ作つて下さつた。京都出發以來、一ヶ月半、全く、天文の社會から遠ざかつてゐたので、今、蕭々々、先づ圖書室で新着の諸報告に眼を通すので書間は終つた。しかし、夜は、よく晴れてゐる空を見ることが出来ない。十二時望遠鏡を用ゐ、變光星の光度を行ふこととし、すぐ今夜から始める。——するさまことに不思議に、又、嬉しいことには、今夜白鳥のSS星が増大してゐるのを發見した。此の星は、京都以來、自分に縁の深い星であるが、今このヤークスへ来て其の第一夜に又、此の星を見ることは、實に不思議の至りである。さにかく幸先は好い！

十月二十日(金)

今日も晝の間は圖書室で勉強。午前十時リー氏に四十時望遠鏡による太陽分光寫眞撮影を見せて貰ふ。夜、十二時のドームに馳け上つて變光星を觀測した。それから今夜は、此のウイリアムス・ペー村の小學校講堂に、歴史教育の活動寫眞があるといふので、吾等二人はミス・ヴン・ビースブルクに連れられて行く。すると、天文臺のバーナード教授も獨りで見に来てゐられた。寫眞は米國南北戦争の繪で、大統領リンカーンの暗殺されるところ、奴隸解放、それからキユ・クルクス團の起りなど、面白かつた。

十月二十一日(土)

今日も晝の間は圖書室で勉強。夕食後、ヴン・ビー氏を始め、家族一同と共に、落音機に合はせて室内體操。それからヴン・ビー氏と自分とは天文臺へ。今夜、バレット氏は小學教師を七八人案内して、星を見せてゐら

れた。

十月二十二日(日)

今日は始めて此の村での日曜日で、朝十時半、パーク・ハースト教授夫妻に連れられて教會へ行く。此の村には舊教の教會の外に、プロテスタントは組合教會が一つあるばかり。牧師は天文に縁の深い名のニウカム氏。

朝十一時半からは同じ教會堂の中で行はれてゐる日曜學校を參觀す。此の日曜學校には大人も、多く禮拜から居残つて教へを受けてゐる。

午後、一寸、ひるね。三時頃、バーナード教授とミス・カルグートとが來訪せられた。こうして新來者を訪れて來るのが「アメリカ式」である。吾々は四時頃、リー氏を訪れた。

夜は曇り。食後、室内で語學遊び。

十月二十三日(月)

今日は午後、バーナード教授にブルース寫眞望遠鏡を見せて貰つた。

午後、デンマークのコペンハーゲン天文臺から電報が來て、ドイツのハンブルク天文臺のバーテ氏が新彗星を發見したことを知らせて來た。之れで天文臺は俄かに活氣付き、ヴン・ビー氏は直ぐ其の觀測準備にかゝられる。空は晴れ。

夕食後、ヴン・ビー氏と自分とは十二時ドームへ上つて、望遠鏡をねらふ中、果して白鳥星座の一角に彗星のあるを見た。光は十等ぐらゐ、直ちに測微觀測。——これは好いものが天から舞ひ込んだものだ。之れは貴君の觀測上からも、好い目的である」とヴン・ビー氏は言はれる。

十月二十四日(火)

正午、パーク・ハースト教授にツァイス製六時の天體カメラ裝置を見せて貰ふ。

夜、自分は獨りで十二時ドームへ上り、バーテ氏星を觀測。それから、ヴン・ビー氏が二呎反射鏡で同彗星を撮影せられるのを手傳つた。曝露は二十四分。彗星はよく寫り、可なりな尾を見せてゐる。

十月二十五日(水)

今日は午前も午後も、ヴンビー、ストルフェ兩氏と共にパーテ星の軌道計算。

夕方、リー夫人の自働車にのせて貰つて、吾々二人は近郊を乗りまはつた。

夜、晴。自分は十二時で彗星観測例の通り。午後十時からパーテハリスト教授が四十時で光度の寫眞観測せられるのを手傳ふ。二時半帰宅。

十月二十六日(木)

今日も彗星軌道の計算のつゞきをやる。午後を終る。之れによるこ、此のパーテ彗星は去六日に、近日點を通過したものでらしく、近日點距離が二(天文單位)以上の不思議なものである。午後四時フロスト一家と共に、自働車でアルナス村へ散歩。夕食はフロスト氏方で饗せられる。

今日、パーナード教授から美しい林檎を頂いたので、御禮に行きついでに自分と中村氏とのワイネケ流星観測報告を差上げた。同教授は大に喜ばれ、更に又其の返禮に、同教授の近著「新星論」を貰つた。

夜、彗星観測。

十月二十七日(金)

今日もフロスト氏とヴンビー氏は朝早くシカゴへ行かれた。午後一時から、吾々二人はパーテハリスト教授の自働車にのせて貰つてレーキ・ジュエネバ市へ行き、銀行預金や買物などした。

夜、彗星観測。但し雲が多く、月も明るくて困難した。

十月二十八日(土)

今日は久しぶりで暇を得て手紙かき。英子は下腹が痛むとて午後就床。

夕方、ヴンビー氏はシカゴから歸られた。

十月二十九日(日)

英子が病床にゐるので、終日在室。正午レーキジュエネバから醫師来る。讀書。

十月三十日(月)

今日からヴンビー教授の言により、一星の位置の寫眞観測の精度研

究」を始めることとなり。今日は先づ屋上の二時寫眞機で得た北極板を渡された。之れの中で適當な星を選び、其の配置圖など作るのが今日の仕事であつた。

英子は藥を飲みつゝ、就床してゐる。

夜、彗星観測。

十月三十一日(火)

今日、又、レーキジュエネバから醫師が來た。英子は大に快方で、今夕から食卓に出席する。

午後、自分は北極板を測定す

夜、曇り。ヴンビー一家はカルタ遊び。

「天文通信」を讀みて

その三

岡山 水野千里

天の美觀

甲、冬に咲く花。夏の夕方に見える星は多くの人々に知られ牽牛、織女がその第一である。しかし天の美しいのは地球上の最も淋しい冬で、オリオン星座を中心に並んで居る多くの星座は全體に一等星が八つもあり二等星が十以上あつて一年中で最もうるはしい時である。

乙、星の展覽會。素人が澤山に並んで居る星を見ても同じ様に感ずるが決してさうではなく、一ツツ形が違ひ、色が違ひ、光の大小の區別がある云ふ譯で、なか／＼複雑なもので専門家に云はすと、世間の人々の顔が違つて居る様に何千何萬といふ星が決して二つと同じものはない。空の星を觀るのは展覽會である／＼なものがあるし、色が種々あつたり、星雲もあれば星團もある。二重星もあれば連星もある。

丙、星の壽命。流星の如く忽ち現はれ忽ち消え去るものではなく何